

# 令和6年度 全国学力・学習状況調査(3年生対象)結果について

生駒市立鹿ノ台中学校

## 【1】生徒質問紙調査から

### ※課題となる点

- ・ ICT 機器を活用する場面で、自分のペースで理解しながら学習を進めること。
- ・ ICT 機器を活用する場面で、自分の考えや意見をわかりやすく伝えること。
- ・ 自分の考えを発表する機会で、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表すること。
- ・ わからないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫すること
- ・ 学習活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組むこと。

### ※良い点

- ・ 朝食を毎日食べていること
- ・ 就寝・起床時間が一定であること
- ・ 自分にはよいところがあると思っていること
- ・ 人が困っているときは、進んで助けていること
- ・ いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うこと
- ・ 人の役に立つ人間になりたいと思うこと
- ・ 学校に行くのは楽しいと思うこと
- ・ 友達関係には満足していること
- ・ 普段の生活の中で幸せな気持ちになる場面があること
- ・ 家庭での学習時間（塾、家庭教師含む）は比較的長く、計画的に学習していること
- ・ 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思うこと
- ・ 授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいること

**〈2枚目へ続く〉**

## 【2】教科に関する調査から

### 国語

全体として・県・全国平均に比べて本校の数値は高い。「話し合いの中で発言について説明したものとして適切なものを選択する」「本文に書かれていることを理解するために、着目する内容を決めて要約する」「短歌に詠まれている情景の時間帯の違いをとらえ、時間の流れに沿って短歌の順番を並べ替える」といった「情報と情報の関係を理解する・必要な情報に着目して要約する・内容について描写を基にとらえる」に関する設問において、県・全国平均を上回っている。

一方、「本文中に示されている二つの例の役割をまとめた文の空欄に入る言葉として適切なものを選択する」「行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択する」といった「全体と部分・主張と例示の関係をとらえる」あるいは「言葉の特徴や使い方に関する事項」の設問はほぼ県・全国平均並みである。

【課題となる点】（無回答率が高かった設問）

①「話し合いの話題や発言を踏まえ、これからどのように本を選びたいかについて、自分の考えを書く」



話し合いを通じて自分の考えをまとめるにあたり、何についてどのような目的で話し合っているか、といった、目指している到達点を意識し、互いの発言を結び付けられるようにすることが重要である。例えば、グループで話題を決めて話し合い、話し合ったことを基に自分の考えをまとめる学習活動において、グループ内での共通理解や内容の整理と共に、自分と他者の発言を結び付けたり、他者同士の意見を結びつけたりしたことを基に自分の考えをまとめるといった学習活動が考えられる。

②「表現を工夫して物語の最後の場面を書き、工夫して表現の効果を説明する」



自分の考えが伝わるように工夫するには、用いた語句や表現が、文章の内容を伝えたり、印象づけたりするうえで、どのように働いているかを確認めながら、より効果的な語句や表現を選ぶことが重要である。例えば、物語を創作する中で、下書きした文章を読み合い、構想や描写が自分の伝えたいことが伝わるようなものになっているのか、説明したり確かめたりする学習活動が考えられる。

〈3枚目へ続く〉

## 数学

全体として県・全国平均に比べて本校の数値は高い。特に、「連続する二つの偶数」「等式の変形」「目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明すること」「統合的・発展的に考え、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明すること」に関する設問では、県・全国を大きく上回っている。

【課題となる点】（無回答率が高かった設問）

### ①「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること」



具体的な場面における問題を表、式、グラフを用いて解決できるようにするために、問題解決の構想を立てたり、問題解決の過程や結果を振り返ったりする活動を取り入れることが大切である。

### ②「筋道を立てて考え、証明すること」



事柄が成り立つことを証明できるようにするには、証明の方針を立て、それに基づいて仮定から結論を導く推論の過程を数学的に表現できるようにすることが大切である。

二つの線分が等しいことを証明するためには、その方針を立て、それに基づいて証明する活動を取り入れる。そのためには、三角形の合同を証明し、それぞれで対応する辺や角の大きさについてわかることを整理したり、合同を示すために必要な関係を見出したりすることが考えられる。

◎ これらの結果をもとに令和7年度の教育活動を検討してまいります。